



『すべての子どもに「話す力」を』竹内明日香著 より引用

～ 大人の私たち一人ひとりにできること ～

「いえいえ、ウチの子なんて」という謙遜をやめよう！

子どものころ、保護者が対外的に自分のことを話すのを盗み聞いてショックを受けた経験はないでしょうか？身内で褒めることを心がけていても、対外的な場面になるとついつい自分の子どもを「いえいえ、大したことないんです」と言ってしまいがちな日本人。

わが子に対する大人の謙遜、保護者が見せる内と外の二面性こそが子どもが自信を失う要素だと言われています。日本特有の文化の中で、わが子を人前で褒めることは簡単なことではありませんが、子どもが褒められたらなるべく「ありがとうございます」と返答し、「ほら、お礼！」と子どもに促し、最後には「頑張った？」と声をかけるようにしましょう。

大人が失敗を堂々と見せよう！

日本人は先進国の中で、自信がない傾向も強いと言われています。そんななかで「話すこと」を一度失敗してしまうと、もう今回のチャレンジは失敗だ、無理だと、諦めてしまうのでしょうか。もし失敗しても「ナイスライ！」「次があるよ！」というメッセージが絶えず飛び交っていれば、どんな場面でも「話すこと」に動じなくなる子どもが増えるでしょう。そのためには、大人が自分の失敗を堂々と見せることが貴重なメッセージになります。「なんだ、大人でもこんな失敗をするのか」「別に恥ずかしいことじゃないんだ」。子どもたちはそんなふうに勇気をもらうことになるでしょう。

保護者の立場を生かしてできること！

もし、お子さんが突拍子もない意見を発したとしても、あたたかく受け止め、適切な声掛けをすることでその子の可能性はひらいていきます。学校のような団体行動の中では、子どもたちは知らず知らずのうちに気を使っています。その分、おうちでは意識して「何を言っても許される空気」をつくってあげましょう。「子どもの話」を忙しいと「要するにこういうこと」ついついまとめてしまったり、質問に先回りして答えてしまったりしがちです。しかし、子どもが次も話したくなるように、時には知らないふりをして「へえ」「すごい」と聞き入ってみたり、仮に自分とは違う考え方であっても「おもしろい考えだね」とまずは肯定する態度を貫けば、子どもは安心して話すようになります。

大人自身も話す姿を見せよう！

話せる子どもになって欲しいと思えばこそ、子どもに話すことを求めるだけではなく、大人自身が話す姿を見せることが大切です。子どもは大人の姿を見て育ちます。だからこそ大人自身の話す力も重要です。ただ、気をつけたいのは、誰かの悪口などのきつい言葉を聞かせてしまうことです。子どもが外できつい言い方をしている、実はそれは夫婦喧嘩で自分が発している言葉から学んだものだった……そんな冷や汗をかくような経験はないでしょうか。良くも悪くも、思っている以上に子どもは大人の話し方を見ている。